

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／石村 雅雄

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①実践を展開していく上で有効な内容（「役に立つ内容」）を入れていくように心がけるが、そこに、効果の即時性は求めない。私の提供する内容は、政策・制度や社会（国際社会・外国を含む）と学生が携わる教育との関わりを考え、それを突き詰めていく、というやり方・方法を自ら見出していくものであり、丁寧に自らの実践を自省し、そのおかれている枠を問い直すという地道な作業を学生に求めることとなる。

②よって、学生との双方向性が何より大切であり、大人数講義の場合は、「何でも帳」の活用、少人数ゼミの場合は日常的な学生との意見交換を心がける。これにより、私自らの教員養成大学教員としての成長も視野に入れ、学生とともに学んでいく姿勢を貫いていきたい。

③成績評価というのは、学生の評価であるとともに、自らの講義・演習の達成度を測る指標でもある。「何でも帳」での双方向的やりとりを総括する形での評価等、評価そのものも双方向的に展開することを試みたい。ここから、学生には、何故、私が当該学生を、このように評価したのかの説明責任を負えることとなる。

#### 2. 点検・評価

①実践を展開していく上で有効な内容（「役に立つ内容」）を入れていくように心がけるが、そこに、効果の即時性は求めない。私の提供する内容は、政策・制度や社会（国際社会・外国を含む）と学生が携わる教育との関わりを考え、それを突き詰めていく、というやり方・方法を自ら見出していくものであり、丁寧に自らの実践を自省し、そのおかれている枠を問い直すという地道な作業を、「何でも帳」への毎講義ごとの学生の書き込みとそれに対する私のコメントを繰り返す形で行った。

②よって、学生との双方向性が何より大切であり、大人数講義の場合は、「何でも帳」の活用、少人数ゼミの場合は日常的な学生との意見交換を行った。

③成績評価というのは、学生の評価であるとともに、自らの講義・演習の達成度を測る指標でもある。「何でも帳」での双方向的やりとりを総括する形での評価等、評価そのものも双方向的に展開した。

以上の中間報告で行った総括に特段加えるものはない。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

・外国人学生を6人担当することから、彼らの学習等に関する要求を丁寧に拾うように心がけ、本学での生活が充実したものになるようにサポートする。

・学生の自ら学ぶ意欲を醸成するため、双方向的な授業を心掛け、授業Web. ページの開設やそこに記される学生の意見に丁寧に対応するように心掛けること、及び学生達の現状把握に心掛け、形成的評価及び双方向的評価を目指すこと、を目指すため、先進的事例の収集・分析に心掛け、自らの授業に反映できる仕掛けを工夫する。

・顧問をしている阿波踊りサークルの学生からのサポート要請(具体的には、踊りの装束、機器等の手配)に積極的に取り組む。

#### 2. 点検・評価

・外国人学生を6人担当することから、彼らの学習等に関する要求を丁寧に拾うように心がけ、本学での生活が充実したものになるようにサポートした。結果、M2学生の修論について、彼の希望する方向で、その執筆をサポートすることができた。

・学生の自ら学ぶ意欲を醸成するため、双方向的な授業を心掛けた。また、学生達の現状把握に心掛け、形成的評価及び双方向的評価を目指すこと、を目指すため、先進的事例の収集・分析を行った。

・顧問をしている阿波踊りサークルの学生からのサポート要請(具体的には、踊りの装束、機器等の手配)に積極的に取り組んだ。

・教員採用試験合格率の向上のために、長期履修学生対象の教育法規の特別講義を3回引き受けた他、個別に教育原理の筆記試験対策を行った。この学生は、見事、教員採用試験に合格した。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

#### 1教育政策形成・実施過程研究

現在の教育に対する住民意識の変容に応じた教育政策形成・実施過程の構築を目指すため、首長や議会が主要な役割を果たす地方政府の教育政策形成・実施過程の事例研究を進める。また、現在の研究動向について、資料収集を行う。

2授業参観を基礎とした大学教育改善に関する全国的な動向、これまでの実践の整理、および理論構築を行う。

#### 3フランス研究

大学の管理・運営研究につき、本年度は、参加概念を問い直すこととし、関係論文、判例の収集・分析を行う。この他、授業研究(Lesson Study)に関する研究として、フランスで行われている授業改善の手法である*classe critique*の現状と課題を明らかにすることとした。これは、下記のフランス語圏アフリカ諸国での授業改善研究に資するものとなる。

#### 4発展途上国教育システム研究

ベトナム・ベンチエー省、パラオ共和国及び仏語圏アフリカ諸国(コートジボアール、セネガル、カメルーン)の教育システム援助実践を理論的に考察する。そのため国際開発関連の諸業績の収集分析に努めるとともに、該当分野の専門家との研究討議を進める。とりわけ、教育援助を進める上での、周辺分野との協力、現地の自立的開発の進め方を中心に進める。また、ベトナムについては、徳島県松茂町のボランティアグループが校舎、教材を寄付したことに対し、それを有効に活用していく実践的研究を併せて進める。

### 2. 点検・評価

#### 1教育政策形成・実施過程研究

現在の教育に対する住民意識の変容に応じた教育政策形成・実施過程の構築を目指すため、首長や議会が主要な役割を果たす地方政府の教育政策形成・実施過程の事例研究を進めている。また、現在の研究動向について、資料収集を行っている。この作業について、8月に開催された日本教育学会第72回大会(一橋大学)で報告した。

2授業参観を基礎とした大学教育改善に関する全国的な動向、これまでの実践の整理、および理論構築を行った。具体的には、本学の11の授業を参観し、FD週間として実施されたワークショップ2つにも参加し、重要な情報を収集できた。この成果については、本学で7月に実施されたFD全学講演会で報告した。

#### 3フランス研究

大学の管理・運営研究につき、本年度は、参加概念を問い直すこととし、関係論文、判例の収集・分析を行った。この他、授業研究(Lesson Study)に関する研究として、フランスで行われている授業改善の手法である*classe critique*の現状と課題を明らかにしている。

#### 4発展途上国教育システム研究

ベトナム・ベンチエー省、パラオ共和国及び仏語圏アフリカ諸国(コートジボアール、セネガル、カメルーン)の教育システム援助実践を理論的に考察している。そのため国際開発関連の諸業績の収集分析に努めるとともに、該当分野の専門家との研究討議を進めた。とりわけ、教育援助を進める上での、周辺分野との協力、現地の自立的開発の進め方を中心に進めており、大学院の特論でその成果を講義した。また、ベトナムについては、徳島県松茂町のボランティアグループが校舎、教材を寄付したことに対し、それを有効に活用していく実践的研究を併せて進めている。

5追加(目標の書き落とし)として、ASEANnessに関する市民教育のベトナム調査を進めている。本年度は、知識人調査をベトナムで実施し、その成果を7月に実施された日本比較教育学会第49回大会(上智大学)で報告し、併せて、平成26年2月に名古屋大学で行われた国際ワークショップでも、ベトナム人共同研究者とともに報告・議論した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

・本学の運営がよりスムーズになるように、自らがもつ能力(FDについての経験、国際経験等)を最大限生かしていけるように、委員等を積極的に引き受ける。  
・大学のより裁量範囲の広い運営を可能にするために、科研費や民間団体等の様々な外部資金に応募し、大学独自資金の増額に努める。  
・本学の学生の増加による、余裕ある運営を可能にするために、様々な機会に本学への進学を勧める。この活動は、海外でも展開するつもりであり、とりわけ、ベトナムからの留学生の獲得を目指したい。  
・そのために、国際教育コースをより魅力あるものとするための様々な工夫を進めるとともに、宣伝広報活動に積極的に参加する。

### 2. 点検・評価

・本学の運営がよりスムーズになるように、自らがもつ能力(FDについての経験、国際経験等)を最大限生かしていけるように、委員等を積極的に引き受けることとしていたので、7月に実施された本学のFD講演会の話題提供者(基礎・臨床教育部会代表)を積極的に引き受けた他、教員免許更新講習の講師(必修科目:教育の最新事情、法規・政策・危機管理部門、選択科目:国際理解教育)、試験監督を引き受けた。  
・大学のより裁量範囲の広い運営を可能にするために、科研費や民間団体等の様々な外部資金に応募し、大学独自資金の増額に努めることとしていたので、科研費の応募を行うとともに、外部資金の公募情報の収集をした。  
・本学の学生の増加による、余裕ある運営を可能にするために、様々な機会に本学への進学を勧める。この活動は、海外でも展開した。とりわけ、ベトナム、台湾、中国からの留学生の獲得を目指し、大学院学生、研究生の応募を得ることができた。  
・そのために、国際教育コースをより魅力あるものとするための様々な工夫を進めるとともに、宣伝広報活動に積極的に参加するとしていたので、京都地域の大学、専門学校への訪問を行い、併せて、郵送によるコース宣伝(100通)を行った。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

・社会との連携:教育支援講師として、要請があれば、積極的に引き受け、専門を少しでも社会に貢献できるよう、心掛ける。  
・国際交流等:平成17年度より続いている、徳島県松茂町のボランティアグループ「はーとふる松茂」のベトナム教育援助事業に専門家として協力し、現地での協力事業の成功に貢献するとともに、それが、松茂町の活性化にも繋がるよう、仕掛けを工夫・提案するとともに、ボランティア実践にも携わる。  
・本年度の大学院学生及び研究生(中国・台湾)への指導を通じて、当該国との交流拡大に努める。  
・国際教育コースに関わる諸事業(サブサハラ仏語圏教員研修、南大洋州教員研修、モザンビーク教員研修等)に積極的に参加し、事業の発展に貢献する。今年度も、昨年に引き続き、フランス語による研修の質を上げたいと考えている。

### 2. 点検・評価

・社会との連携:教育支援講師として、上板町教員研修会、愛媛県立西条高校講演会、徳島県立富岡西高校講演会に講師として赴いた。  
・国際交流等:平成17年度より続いている、徳島県松茂町のボランティアグループ「はーとふる松茂」のベトナム教育援助事業に専門家として協力し、現地での協力事業の成功に貢献するとともに、それが、松茂町の活性化にも繋がるよう、仕掛けを工夫・提案するとともに、ボランティア実践にも携わった。  
・本年度の大学院学生及び研究生(中国・台湾)への指導を通じて、当該国との交流拡大に努めている。  
・国際教育コースに関わる諸事業(サブサハラ仏語圏教員研修、南大洋州教員研修、モザンビーク教員研修等)に積極的に参加し、事業の発展に貢献した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

「研究の現場から」として、自らの研究・教育活動を紹介し、本学の国際的貢献をアピールする記事が掲載(毎日新聞4月17日付け)してもらい、本学の広報に貢献した。

「校長考 民間の風生かすには」のテーマに対し、意見を求められ、読売新聞11月10日付けに掲載された。